

JPN



M
MΣ



ご来場の皆様

ブルノ市立博物館の所在地となっている
国立文化財シュピルベルク城・要塞へよう
こそお越しくございました。

シュピルベルクは700年以上にわたり、
ブルノ市の重要なランドマークであるとともに、
君主の権力と人々の苦しみの象徴と
なってきました。これまで幾度となく建て
直され、様々な目的に使用されています。
このガイドツアーでは、シュピルベルクの
豊かな歴史を簡単にご紹介いたします。

ご質問がございましたら、いつでもお知
らせください。喜んでお答えいたします。



ドイツ国防軍のために再建された四角い塔の空間 1939年から1941年まで

角柱型の塔

角柱型の塔は、中世におけるシュピルベルク城の防御システム上、重要な役割を果たしていました。13×14メートルの長方形をした建物は、東側にある車両入口門を守備していたと同時に、その壁が強固であったことから、城の守備隊が避難する場所として使われていました。当初、塔は数階建てでしたが、窓がほとんどないため、空間としては非常に暗かったに違いありません。しかし、シュピルベルクに居住する人にとっては、身の安全を確保するために必要だったのです。

バロック時代に要塞の改築工事が行われた時、非常に厚い壁で囲まれたこの暗い部屋の実用化が検討され、最終的に空間を仕切って、シュピルベルク兵舎の兵士が罪を犯した場合に罰する牢屋として利用することになりました。これらのスペースは、1939～1940年にかけて、ドイツ国防軍とゲシュタポがシュピルベルクを占領した時にも同様の目的で使用されました。かつての角柱塔に造られた監獄は、囚人一人を他の囚人から隔離して拘禁するための独房として使用されました。

1999～2000年にかけてシュピルベルク城東側の棟の修復工事が行われた際、城を防御するための塔本来の機能を一部復元することが決まりました。各階に敷かれていたバロック時代の床を取り払い、建物空間が持つ開放性を強調する試みが行われました。すでに崩れかけていた中世の外周壁を補強するため、帯状の放物線アーチ形(1)にレンガを積み上げるといった近代的な興味深い要素が用いられました。この部分は、ブルノ見本市会場のパビリオンAを表象しています。

角柱塔の内部は、現在、嚴重に保護された「宝物殿」の趣を呈していますが、ブルノ市博物館の重要なコレクションを展示するために利用されています。

床には、ボヘミア王国、及びその他プシェミスル・オタカル2世の支配下にあった領土の地図(2)があります。正面に見えるのは、統治者の紋章です。各領土は紋章で表示されていますが、クライン、ケルンテン、シュタイアーマルク、エスターライヒ、モラビア、ボヘミアです。

紋章は3か所で欠如しています。ヘプ、ビンディシュ・マーク、ポルデノーネの町です。プシェミスル・オタカル2世の時代にこれらの地方にて使われていた紋章で彩色の施されたものが紋章学者によると知られていないためです。地図は当時の習慣で南方向、つまりローマ方面が基準になっています。「北を上」とする地図がヨーロッパで登場するのは、14世紀にコンパス(方位磁石)が普及するようになってからのことです。

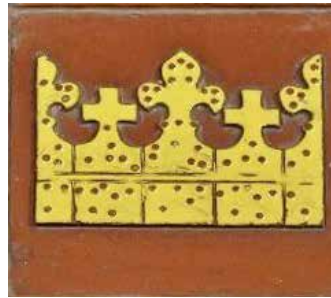


モラビアの鷲

角柱塔の壁面には、当博物館のコレクションの中でも特に興味深い所蔵品のひとつが展示されています。18世紀前半に造られた「モラビアの鷲」です。菩提樹の木を彫って制作されたこの作品は、構造上の工夫が施されており、木製部品を組み合わせることで鷲の胴部が盛り上がるように造られています。翼は肩の根元でクサビとネジを使って接続しています。

彩色の仕方から、ブルノ市内の重要な建築物の内装に使われていたものであると考えられています。

2008年、ブルノ市立博物館のインドジフ・ユルチャ保存修復師によって修復作業が行われました。



プシェミスル・オタカル2世が統治していた時代のシンボルを、君主の兜飾り（クレスト）からインスピレーションを得て芸術的に表現したもの。



クライン



ケルンテン



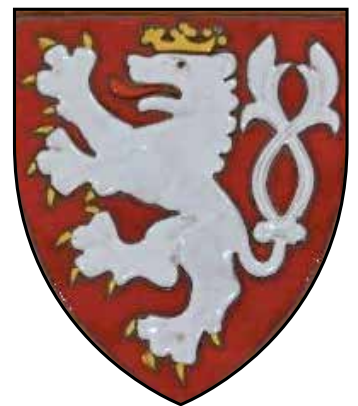
シュタイアーマルク



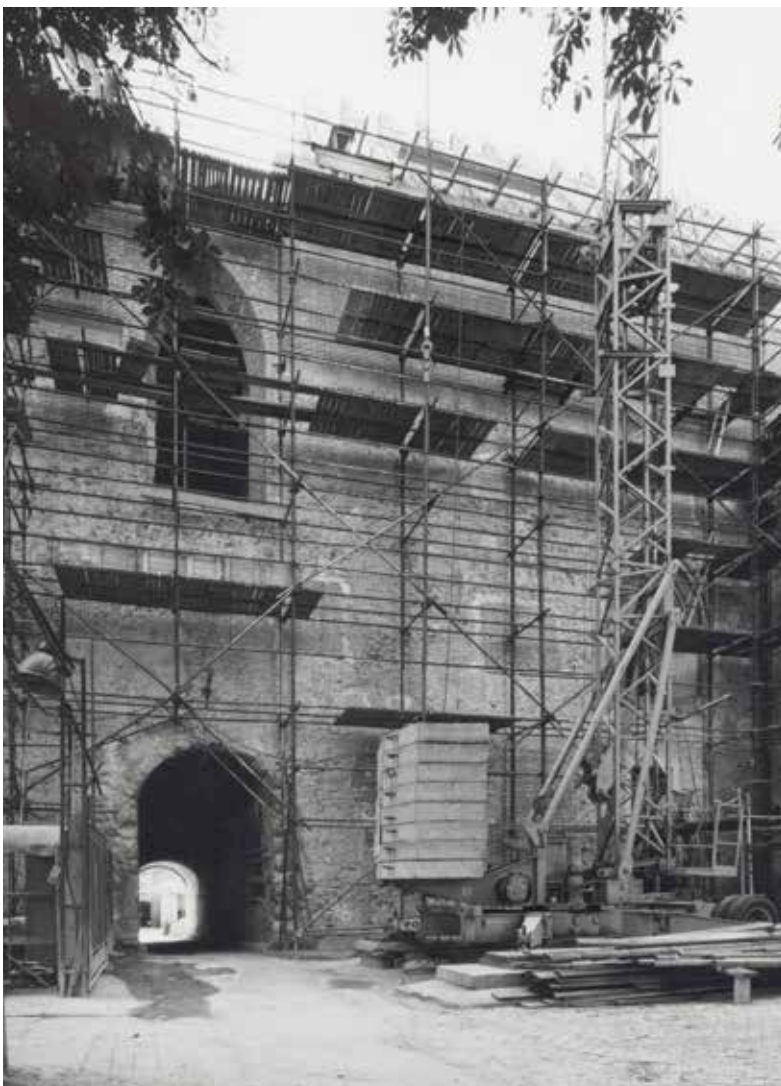
エスターライヒ



モラビア



ボヘミア



修復工事が行われた際、丸天井が崩れ落ちた後の瓦礫の中から、十字に伸びたリブを天井部分で固定する部分（**1**）が見つかりました。建てられた当初、天井は、先程訪れたゴシック様式のホールと同様、リブが十字型に伸びたボルトだったことが考えられます。

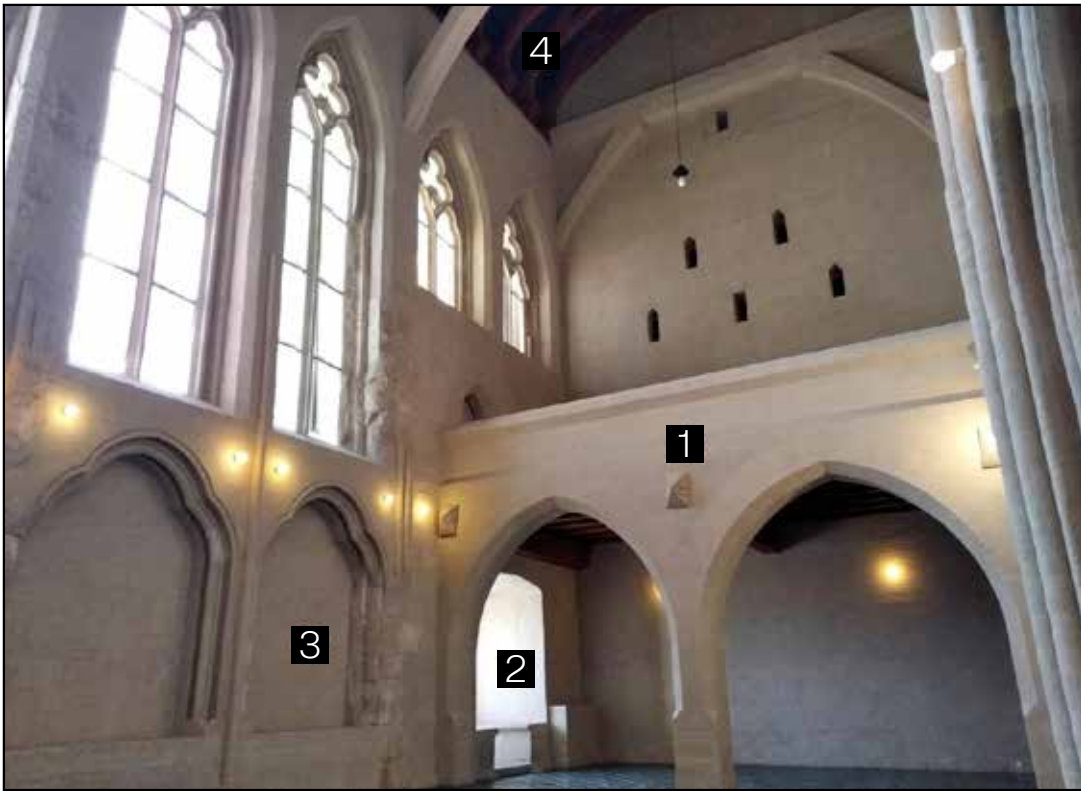
小さい方の中庭から城の東棟を望む（修復工事の様子）。1990年代後半の写真。

車両用通路の上のスペース

シュピルベルク城東門の上に建てられた建造物がどのような目的で使われたのか、文献資料調査のみならず、建築史学調査も行われましたが、確認されていません。しかし、この空間は数階に分かれていた可能性が高いことは明確になっています。現在見られるような水平方向にスペースが分割されていない状態のホールについて、その用途を述べた一説によると、城が建設された中世のある段階にて、城の礼拝堂になったとされています。スペースは細長く、祭壇が置かれていた場合、その位置が東側を向いているため、キリスト教の聖域を建設する条件の一つを満たしていたこととなります。しかし、中世に城は自然環境の厳しい場所に建てられたことから、多くの場合、大工が礼拝堂を正しい位置に建築することは不可能だったため、所定の方角から逸脱していても、教会の許可が下りていました。そのため、角柱塔に聖域が置かれたという説は正しいとも、間違っているとも言えないのです。

この礼拝堂については、1277年9月4日、プラハにてプシェミスル・オタカル2世がシュピルベルク城に関して発行した現存する最古の文書の中でも言及されており、その中で以下のように記録されています。

“・・・我々が建設した礼拝堂は洗礼者ヨハネに敬意を表して奉献した・・・”



1939～1941年にかけてドイツ国防軍のために修復された王室礼拝堂

王の礼拝堂

「王の礼拝堂」と呼ばれているこの場所は、東側の棟の中でも重要な空間です。元々、天井は左右の大きさが不均等な十字型ボードになっており、彩光のため、頂点が尖ったアーチ形の高窓が造られました。小さい方の中庭から非常に華麗な入口門を見ることができますが、その奥にある部屋へは中庭から外周壁に沿って造られていた木製の回廊を通して入りました。この空間全体がどのような目的で使われたのかについては、今日、二つの説があります。一つは、君主又はその代理人に謁見するための主要会議場だったとする説、もう一つは洗礼者ヨハネに奉献された城の中でも最も重要な礼拝堂だったとする説です。

1997～2000年にかけて行われた城の修復工事では、中世の壁で現在でも残っている部分が見えるようにし、建築要素の欠如している部分を補足して、礼拝堂として仕上げることになりました。部屋の南側に造られた聖歌隊席 (1) が、初期ゴシック様式の窓と、壁に設けられた座席 (2) を覆っています。また、部屋縦方向の壁にはセディエユになっているアーケード (3) も復元されました。丸天井は復元されなかったため、この空間は屋根裏の腕木 (4) まで垂直方向に開放されており、シュピルベルク城の中でも最も壮大な印象を醸し出しているスペースとなっています。

この広間が建てられた当初の正確な様子も、そしてどのような目的で使われたのかについてもわかっていませんが、この部屋は中世において城の所有者へ謁見する時に使われ、城の中でも豪華な部分に相当したと考えられています。ボヘミア王、モラビア辺境伯であったヤン・インドジフ、その息子のヨシュト、プシェミスル・オタカル2世、カレル4世とその最初の妻である（義母から反対され、ブルノに追放された）バロア家のブランカがここで過ごしたことは

確かです。シュピルベルクのこの場所で祈祷したのか、或いは訪問者を受け入れたのか、今では知る余地もありませんが、東側の棟で建立当時のゴシック建築が残っている部分は、今日もなお王家の光輝を放っているのです。



城の東側棟にあるステンドグラスの窓

シュピルベルク城の最も古い部分である東側にある棟の修復作業は、スタニスラフ・リベンスキーとヤロスラバ・ブリヒトバーのデザインによる新しいステンドグラスが取り付けられ、2003年に完了しました。

このステンドグラスは、金属で区切られた中に様々な色のガラスが組み込まれた古典的なものではなく、各窓が一色で調和しています。この歴史的な場所にふさわしい作品が出来上がるよう、鉛ガラスの塊は通常はあまり使用されない酸化物を使って黄金色に近くなるまで着色し、その後ガラスがカットされ、磨かれて正確な形状に仕上げられました。同様の作品は、チェコ国内では聖ビート大聖堂の聖バーツラフ礼拝堂とホルショフスキー・ティーンにあるゴシ

ック様式の礼拝堂においてのみ見ることができます。有名なガラス工芸家であるスタニスラフ・リベンスキーにとって、これは最後の作品となり、残念ながらその完成の暁を目にすることはありませんでした。そのため、シュピルベルクの作品はスタニスラフ・リベンスキーの伴侶であるヤロスラバ・ブリヒトバーが完成しました。



Muzeum
města Brna

Facebook → @Muzeum.mesta.Brna @Spilberkzije
Instagram → @hrad.spilberk

#hradspilberk #vilatugendhat
#meninskabrana #arnoldovavila

spilberk.cz ↗